

コロナ禍、大震災10年、
これからの仙台

子どもや女性を 大事にする政治は、 社会を豊かにする。



すげの直子議員
(予算特別委員会)

新年度予算をめぐる各会派による質疑が行われた今議会。すげの直子議員は、子どもや女性、高齢者を大切にす施策を求めました。

不登校生徒の教室にエアコンを

仙台市は今年度から、不登校生徒の居場所づくりを学校内に進めています。在籍学級外教室「ステーション」もそのひとつです。ところが教室に、エアコンが設置されていません。

すげの議員「普通教室では、みんなが涼しい快適な環境で勉強したり給食を食べたりしているのに、自分がある教室は、エアコンもないのでは『学校において』と言われながら、罰則をあたえられているかのようだ。ぜひ、設置を」

郡和子市長「この夏は、暑い思いをさせて可哀そうだった。まずは、今年6月までに仮設で使っていたエアコン(ルームエアコン)を設置する」

すげの議員「ルームエアコン1台では、効き目がないと職員も言っている。差があっては、ならな

い。いま決断すれば、今年の夏には間に合う」

ひとり親世帯への支援

すげの議員「非正規労働者の解雇、雇い止め、シフトの大幅減で収入が激減し、実質失業状態にある人が、とりわけ女性に増えている。女性の自死が増えているという深刻な事態だ。支援金や食料品の提供など、市独自の支援策を」

子供未来局「生活福祉資金や生活保護など制度の案内、子ども食堂の紹介など行っていく」

大竹児童館は、なくさないで

大竹児童館(青葉区)は、施設の老朽化を理由に大沢児童館に統合されようとしています。

すげの議員「旧宮城町時代から地域の子どもの成長を支えてきたところだ。地域のみなさんは、なくさないでほしいと訴え、せめて大沢児童館のサテライトとして運用できないかとも提

案している。柔軟な対応を求める」

折立地区の乳幼児健康調査

青葉区折立、西花苑地域の子育て中の人たちは、乳幼児健康調査や母子手帳の交付を青葉区役所でしか受けられず、ずっと近い宮城総合支所では、手続きができません。「近場で受けられるように」の声は、切実です。

すげの議員「昨年10月、地域のお母さんたちは、アンケートを集め、青葉区に直接要望した。アンケートには、いろんな声が寄せられた。『公共交通機関で来てくださいと書いてあるので、越してすぐ2歳の子と母子手帳交付のためにバスで行ったが、本数は少ないし、帰りは上の子がバスで寝てしまい、妊婦なのにバス停から家まで、背中にリュック、子どもを抱っこして歩いた』など」

郡市長「地域の声を改めて聞かせてもらった」

区役所の要求には、こたえて

すげの議員「区役所の要求がだいぶ削られている。区役所は、予算が潤沢ではない。地域住民の願いにこたえた事業を積極的に展開したいと要求されたら、できる限りこたえることが必要だ」

財政局「地域ニーズに的確に対応できるよう予算配分につとめる」

都市公園は、禁煙にすべき

すげの議員「勾当台公園の喫煙問題で、市に要望書や声が届いていると思う。せめて都市公園は喫煙禁止とし、安心安全に暮らせるまち仙台を実感できるよう力を尽くしてほしい」

大震災10年。復興住宅の見守り活動について

すげの直子議員「東日本大震災から10年。本市は時々の復興の課題をどう乗り越えてきたのか教訓化し、それを100年先まで風化させず伝え続けるためには、行政の意識的な取り組みが大事だ。」

復興公営住宅の被災者への支援に関してだが、見守りのひとつとして、ひとり暮らし高齢者等生活支援システムを実施している。このシステムが終了するということだが、これまで利用していた方々は、どうなるのか」

健康福祉局「希望者に提供してきたひとり暮らし高齢者等生活支援システムは、このたび緊急通報システムに切り替える。切り替えを希望した世帯は48世帯、149世帯は希望しなかった」

すげの議員「149世帯が終了ということだが、費用負担があって移行出来ない方が多い。見守りは、いっそう強化する必要がある」

健康福祉局「各区保健福祉センターや社会福祉協議会が連携する個別訪問やコミュニティ活性化の支援などの見守りを継続していく」

就学援助の拡充にむかって

ふるくぼ和子議員「新年度、中学校の生徒会費を就学援助の支給対象に加えたことは、歓迎する。国が支給対象として示している、市がまだ対象としていない項目は、まだある(クラブ活動費、PTA会費、オンライン学習通信費)。対象に加えていくべきだ」

ふるくぼ議員「就学援助制度の入学準備金(新入学生用品費)は、生活保護制度の入学準備金より低い額だ。市が独自に上乘せし、生活保護世帯と同額にするよう求める。当事者にとっては、ランドセルや制服が買えるかどうかの大きな問題だ」

ふるくぼ議員「就学援助を受給できる仙台市の基準額は390万円。この額は、24年間変わっていない。消費税は5%から10%になり、公共料金、食料品の物価も上がった。基準額を引き上げるべきだ」



ふるくぼ和子 「あとは市長の決断です」

教育局「基準額は、政令市20都市中、下から2番目となっている」

ふるくぼ議員「教育局は、新年度予算編成にあたり、認定基準額の引き上げ、就学援助の新入学生用品の支給単価引き上げを要望した。しかし、これらは査定され9700万円も減額された。教育局が求めた就学援助拡充の費用が削られたのは、本当に残念だが、教育局でも問題意識をもって動かそうとしていることがわかった。あとは、市長の決断だ」

教育長「私も認定基準額の改定は、望ましいと考えている。政令市で下から2番目でいいということではなく、少しでも引き上げたいと思い、予算を要求した。制度を少しでも前に進めることが必要だと思う」

郡和子市長「努力しなくてはいけないと思っている」

学都フリーパスを宮城交通にも

嵯峨サダ子議員「通学支援として、交通局が実施している通学定期券『学都仙台フリーパス』は、市バスと地下鉄しか使えないため、宮城交通など民間バスにも適用してほしいという要望が再三出されている。太白地域連合町内会の懇談会では『宮城交通の通学定期券は、学都フリーパスに比べ2~3倍も高い。市バスが運行していないというだけで、これだけの格差があるのは不公平』との話が出た。2019年度の予算特別委員会で市長は、支援策のあるべき姿を多角的に検討すると述べた。検討状況は、どうになっているのか」

都市整備局「学生の運賃負担の公平性確保に向けた支援のあり方を検討しているところ。宮城交通、愛子観光バス、タケヤ交通の本社にうかがい、フリーパ



嵯峨サダ子 「朗報を期待しています」

ス導入の考えや課題、条件など意見交換してきた」

嵯峨議員「地域住民が『バス問題を考える会』を立ち上げ、宮城交通本社にも行ってフリーパス導入を要請した。署名運動も取り組まれている。山田鉤取地区、太白地区、人來田地区の連合町内会や各小中学校PTAなどが取り組んでいる。公平な通学支援となるよう制度を構築するよう求める」

郡和子市長「市バスを利用できない地域のなかには、不公平感があり、支援を求める声があがっていることも承知している。支援のあり方を検討していくことは、公共交通の利用促進に向けて一定の効果にもつながる。支援策の導入にあたり、課題もあるので時間もかかっているが、引き続き検討を進める」

嵯峨議員「朗報を期待している」

復興住宅の地震被害

高村直也議員「2月13日夜、発生した福島県沖地震により、あすと長町第二復興公営住宅では、14階の床板が抜け落ちる被害が発生した。この床板を踏み抜いた住民の方は、足に軽傷を負う程度で済んだが、落下していれば人命にかかわるところだった。建設されてから約6年しか経過していないのに、このような被害があったのは、残念だ。落下した床板は、エキスパンションジョイントカバーと呼ばれるもの。あすと長町第二住宅は、2棟に分かれており、各階には2棟を接続する渡り廊下が設けられ、この廊下の床板部分がエキスパンションジョイントカバーだ。現場を視察して、危うさを覚えたのが、このカバーを固定した部分だ。ネジ穴が小さい。この固定した部分が外れてしまったら、すぐに落下してしまうであろう。外れ



高村直也 「公募買取のプロセスに問題がなかったか」

なければ、落下しなかったことは、間違いない」

都市整備局「現在、施工業者が調査中」

高村議員「あすと長町第二住宅は、土地、建物を公募買取したもの。市は、エキスパンションジョイントカバーについて、事前に把握していたのか」

都市整備局「建築確認申請時の図面により、認識していた」

高村議員「ネジ穴が小さいことは、認識していたか」
都市整備局「工事を実施する際の施工図面は、建て主が持っているもので、小さなビスの部分まで確認できていなかった」

高村議員「危険な点があつていなかったということだ。市は、施工図面は見えていないとのこと。ここに公募買取の課題がある」